

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890300126
法人名	有限会社ケアサポートさくら
事業所名	グループホームしおり
所在地	愛媛県宇和島市丸穂甲937-15
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 16 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①デッキでつないだ他ユニットの利用者との交流や、合同行事による隣接ホームとの交流など、開かれたホームとしての在り方を検討し、一人ひとりの居場所や生活に広がりができることを目指している。
②保育園を中心に地域との交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所から宇和島城が目の前に見え、海や街が見渡せる素晴らしい景色の中、利用者は穏やかな日々を過ごすことができる。代表者をはじめ管理者、職員全員が利用者に関わり、利用者の望むことはすぐ行動に移し実行するなど、前向きな姿勢でケアに取り組んでいる。管理者は職員から信頼されており、関係性がとても良好である。職員の対応は優しく、利用者一人ひとりの思いを大切にしながら利用者本位のケアを行っており、穏やかに楽しく生活できるよう支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームしおり

(ユニット名) 風

記入者(管理者)

氏名 渡部 和美

評価完了日 平成 25 年 10 月 16 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で相談して作り、額にして、職員だけでなく利用者にも家族にもわかるようにしている。またそれを合言葉に、実践に向けて努力している。</p> <p>(外部評価) 事業所の基本理念のほかに、職員全員で考えたユニット毎の理念を作成し掲示している。年度末に職員は1年間の理念に沿った取組みの振り返りを予定している。理念は職員全員で共有し、利用者一人ひとりの思いを大切にされたケアの実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に入り、地域の夏祭りや行事に参加したり来てもらったりしている。広報誌を回覧板で回してホームの様子を知ってもらったり、地元のお店の商品を配達してもらい交流を図っている。高齢者サロンを、ホームで実践していただいたことがある。保育園とは2か月に1回、ミュージックケアなどで交流がある。</p> <p>(外部評価) 事業所の「しおりだより」を自治会に配布し、地域住民に周知して理解を得られるように努めている。近隣の保育園や小学校との交流の機会が頻繁にあり、利用者は保育園児と芋ほりを行い、芋を土産に持ち帰ってもらうなど交流をしている。地域のボランティアが頻回に訪問してくれるなど交流が深まっているが、管理者は本格的な交流はこれからだと考え、地域とのつながりを大切にして取り組む姿勢が伺える。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 毎月、見学・相談日を設けている。相談を受けた場合は、認知症の人の理解や支援方法をアドバイスできるようにしている。地域の病院の講演会の場を提供し、地域の方と一緒に勉強する機会もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回開催し、事業所の取り組みやサービスの状況な どを報告し、家族や地域の方や他のグループホームの方等 の意見を取り入れ、その内容はミーティングで発表し、 サービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、保育園長、赤十 字奉仕団代表、老人クラブ代表、自治会長、近隣のグルー プホーム管理者、市担当者等の参加を得て開催している。 会議では事業所の状況や課題等を報告し、参加者と意見交 換をしている。会議と合わせて地元の医師を招き、公開医 療講座を開催する工夫もしている。開設後間もない事業所 の会議であるが、参加者や議題が固定化しないよう、より 良い会議になるように工夫や努力が伺えた。	会議は報告や情報交換にとどまらず、多方面から情報 を収集することや参加者から率直な意見をもらい、 サービス向上に活かしていくことが重要である。参加 者から幅広く意見が得られるように、今後は近くの小 学校や消防署等にも参加を呼びかけ、双方向的な会議に なることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、アドバイスをもらって いる。また、その議事録は報告したり、疑問がある時には 相談に乗ってもらっている。 十分連携を図り、協力関係が築けるよう努めている。	
			(外部評価) 市担当者が運営推進会議に参加し、利用者の相談を行うな ど連携を深めている。事業所の運営報告やヒヤリハットな どの相談が気軽にできる良好な関係を築いている。また、 介護相談員の受け入れを申請している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はしていない。また、研修で全職員が学び、身体 拘束について理解している。	
			(外部評価) 職員は利用者に寄り添い見守ることで、身体拘束をしない ケアに取り組んでいる。事業所の新人研修にも身体拘束を テーマに取り入れている。外部研修の参加者は、ミーティ ング等で報告し職員間で共有している。言葉での拘束にも 職員全員で意識しながら適切な対応をしている。利用者の 安全面に配慮して、夜間のみ玄関に施錠し、エレベーター の使用は中止している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員が研修で学び、理解している。 虐待のない介護に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護制度についての研修を受け、理解している。 必要になられた時には対応できる準備ができています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明と理解に努め、双方納得して入所いただけるよう心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置している。 家族からの意見は、その都度職員と話し合い、運営に反映させている。また、運営推進会議等で報告している。	
			(外部評価) 利用者や家族が運営推進会議に参加し、意見や思いを表せる場を設けている。また、家族の訪問時や担当者会議などで意見や要望を聞くよう努めている。開設して間もないため、家族からはあまり意見等は出されなていない。利用者や家族から出された意見は、迅速に対応できるよう取り組む姿勢である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会やミーティングで意見を聞き、職員が運営に参加できる機会を取り入れている。	
			(外部評価) 職員は管理者に日々の業務の中で気づいたことを話しており、毎月のミーティングやユニット会でも活発に意見が出されている。管理者は職員の意見を尊重し、働きやすいシフト作成をするなどコミュニケーションを図りながら、職場環境や関係づくりを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 時間外手当や会議手当、研修費等設けて、働きやすい環境になっている。代表者の気配りがある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の機会を設けて、全員が参加できる。また、資格が無理なく取れるよう、取り計らっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近くのグループホームの行事に相互に参加している。運営推進会議にもお互い出席している。協会の相互研修にも参加し、サービスの向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に不安なく生活できるよう、寄り添う介護をしている。本人の声を聞いた時には、職員皆で情報を共有し支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約時やその前の面接時に、本人・家族の困っていることや不安なことなどをよく聞き、サービス内容についてよく説明している。 なんでも話していただけるような関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 希望を聞いて、必要なサービスや福祉用具、馴染みの人や物の支援を含め、本人にとって必要な支援を見極めて対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 調理や洗濯物たたみなど一人ひとりの活躍の場を提供し、共に生活できるよう努めている。 また、一緒に歩いたりテレビを見たり会話するなど、日々の生活全般で支え合いながら生活している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 受診に同行してもらったり、日々の状態を報告して面会をお願いしたり、行事のたびにお誘いするなど、できる限り本人と関わってもらっている。 家族の面会時には普段の様子をお話したり要望を聞くなどして、家族の気持ちも大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ドライブで家族に会いに行ったり、今までの宗教が続けられるよう友人、知人が面会に来られるようにしている。希望すれば毎日電話して、家族の声を聞くこともできる。行きつけの美容院や病院、店にも行っている。 (外部評価) 行き慣れた美容室や店に買い物に出かけるなど、利用者一人ひとりの生活習慣を大切にした支援をしている。併設するグループホームの利用者との交流をしており、毎日デッキで会話がはずんでいる。携帯電話で知人に連絡をするなど、利用者の馴染みの人や場所など継続的な交流ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 男性が1名のため、隣のホームと合同ではまゆうの会（男子塾）を作り、月1回男性だけの交流を図っている。レクリエーションを取り入れ、仲間意識を高めている。また、利用者同士の会話の橋渡しをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院された方には継続してお見舞いをしたり、家族から相談があれば対応している。偶然に出会えば挨拶など交わしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 誕生日には本人の希望を聞いて対応したり、出かけた際には出かけられる支援をしている。担当者会議の際、思いや意向を聞きとる機会を作り、本人からの希望はできる限り叶えられる支援をしている。 (外部評価) 利用者の一人ひとりに向き合いながら、職員は日々の会話の中から思いや希望を聞き取るよう努めているが、困難なことを実感している。利用者の思いや意向の把握はこれからの課題として職員全員で話し合い、管理者は利用者寄り添いながら支援していくことを検討している。また、ボランティアが利用者の思いなどを描いた絵を飾る工夫をしている。	思いや暮らし方の希望、意向等を明確に把握できない利用者もいるが、曖昧にしたり一部の職員の意見や考え方で決めてしまわないよう職員間で話し合いながら、利用者本位のサービスが提供できることを期待したい。また、利用者や家族は事業所での共同生活に不安もあり、職員が寄り添い優しい支援をしていくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) できる限り本人から聞きとり、また家族からも話を聞き、把握に努めている。聞き書きボランティアの協力も得て、ご本人の思い出などの収集もしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の活動や会話の中から本人の力の把握に努めており、実践につなげている。日々の健康チェックなどでも情報収集し、持てる力を活かしつつ自立支援につなげている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のモニタリングをユニット会で担当者が発表し、話し合っている。 ケアプランも、担当者や看護師を含む全員で話し合って作成している。	
			(外部評価) 「利用者がより良く暮らしてもらうためにはどうしたらよいか」を考え、利用者毎の担当者を中心に話し合い原案を作成し、職員全員で話し合い介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、評価を行っている。管理者は利用者や家族の意見を反映して、職員の意見を聞きながら介護計画がより良いものになるよう努めている。また、定期的に計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送り時に徹底して伝達して、情報を共有している。個人の記録の中にケアプラン実践の記録もあり、実践につなげている。また、その集計で客観的なモニタリングに努めて、計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 男性だけ集まるはまゆうの会を開催や、家族の入院時にお見舞いにお連れしたり、他のグループホームの利用者の行事参加を受けたりした。 家族の昼食も提供している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 多くのボランティアの来所があったり、保育園や小学校、公民館の行事に参加している。 地元の魚屋さんやパン屋さんにも来てもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 家族の協力を得てできている。 かかりつけ医に常に何でも相談し、対応してもらっている。 定期的に往診がある。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を家族の協力を得て受診することができる。緊急時には協力医が24時間体制で対応しており、利用者は安心して生活を送ることができる。また、月2回協力医の往診があり、利用者の健康管理をしている。専門医への受診は職員が同行し、状態の報告等を行い連携を図りながら利用者の支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常に相談し、協力して支援にあたっている。 スタッフは気づきや情報を提供し、看護師が対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時の情報提供を必ずし、退院時の相談に乗っている。 空き情報も伝えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に詳しく、終末期の方針について伝えている。 家族の意向を考慮し、協力医やかかりつけ医との連携を取りながら支援している。	
			(外部評価) 看取りに関する指針等を定めており、事業所では協力医と連携を図りながら看取りに取り組む姿勢がある。利用者や家族の意向をその都度確認しながら、利用者の思いを大切に安心して終末期を過ごせるよう取り組む方針である。急変時に備え、代表者や管理者が事業所に待機するなどして対応できるよう体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 普通救命救急講習を全員受けている。 新任者へは新任者研修の一つで、緊急時の対応について研修している。 AEDを設置している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を実施している。 各ユニットや主任等は携帯を持っていて、すぐに緊急時の対応ができるようにしている。 地域の協力はお願いしているが、体制は整っていない。 (外部評価) 年2回避難訓練を行う方針である。開設して1度訓練を実施し、地域住民に参加協力を呼びかけたが参加者が少なく、地域住民を交えた訓練が行えるよう努力している。宇和島市の避難訓練にも参加し、地域での協力体制にも対応できるよう努めている。また、備蓄等を用意し、利用者の安心安全な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。	職員だけでの利用者の避難誘導の限界を具体的に確認し、地域住民や地域の消防団等の参加を呼びかけ、事業所の災害対策に関する理解を求め、協力体制を築いていくことを期待したい。事業所を地域の避難場所として提供していることから、運営推進会議等を利用し事業所内部の見学を行うなど地域住民への周知に努め、身近な関係を築いていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 否定するような声かけはしない。人生の先輩であるという意識を持って接している。また、部屋に入る時のノックや入りたい時に利用者に入る旨、確認している。 トイレの声かけは小声するなど、プライバシーを損ねないよう対応している。 (外部評価) 特に排泄や入浴時に、利用者の誇りやプライバシーを損なうことがないように配慮しながらケアに努めている。また、利用者のプライドを傷つけないよう声かけに注意したり、利用者一人ひとりの人格を尊重するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 生活全般で本人の意思を確認しており、自己決定できるよう声かけに努めている。また、自己決定が困難な人には選択肢を作って、選んでもらうよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思に沿って対応しているが、安全面を考慮して時には制限のある生活もある。 決まった日課ではなく、利用者の希望に合わせて場所を変えてお茶を飲んだり、1対1で対応したりしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容室で毛染めしたり、同じ服を着ないように支援する。 ボランティア散髪が毎月あり、定期的にカットできる。 行きつけの理・美容院を利用できる支援もしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員が、季節感を感じられるメニューを考え、一緒に食事の準備をしている。誕生会やイベントにはお祝い膳や仕出しを利用することもある。 時には外食したりお弁当をとったりして、食事が楽しめる工夫をしている。	
			(外部評価) 職員と利用者が同じ食卓を囲み、会話しながら楽しそうに食事をしている。利用者の希望をメニューに取り入れ、利用者と一緒に育てた野菜等が食卓を飾っている。利用者が下ごしらえや片付け等を率先して笑顔で手伝うなど、自宅と同じ雰囲気になれるような楽しめる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量をチェックしている。お茶の時間の回数を増やして脱水予防に努めている。 夜間には飲みやすい容器を枕元に置き、対処している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声かけし、必要な方には口腔ケアをしているが、その他の利用者には十分とはいえない。 かかりつけの歯科医には、すぐに相談し対応していただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄に努めている。 本人の様子をみて声かけし、誘導、介助している。できることとできないことが把握できていて、必要な部分を支援している。夜間は本人の状態に合わせて声かけしている。	
			(外部評価) 基本的に誘導をしてトイレでの排泄を支援している。排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。失禁のある利用者には、紙パンツやポータブルトイレを使用するなど、その人に合わせた支援を行っている。居室にあるものを併せるとユニットに5か所トイレが設置されており、利用者の状態に合わせて使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 体操や十分な食事摂取を働きかけている。 排便状況の把握に努め、コントロールできるよう対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って入浴できるよう働きかけている。日中ならいつでも入浴でき、毎日入浴される方は6名いる。一緒に入りたい人の場合も希望を叶えている。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、毎日入浴できる体制をとっている。ユニット毎に個浴槽と特殊浴槽を設置し、利用者の状態に合わせて安全に入浴できるように配慮している。入浴の苦手な利用者には無理強いないよう声かけやタイミングを工夫している。また、利用者に合わせた同性介助や2人体制で入浴介助を行っており、心地よい入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの様子を見て対応しているし、本人のペースで休憩できている。くつろぎの場所があり、好きなどころで休息できるようにしている。 夜間は居室の室温や寝具の状態を確認し、安心して眠れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は2重のチェックで誤薬がないよう努めている。薬は名称で覚え、変更時には必ず情報が共有できるよう記録している。職員はほぼ理解し、飲み忘れなどのないよう、また、変更時は変化の確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 全員に役割があるよう努めている。本人の得意な分野（調理、塗り絵、歌など）で、本人の力に合わせて一緒にしている。おやつも、利用者の希望に合わせて一緒に買いに行ったりもする。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に沿って外出しているが、本人からの希望は少なく、声かけで外出している。 遠方の外出は大変喜ばれた。	
			(外部評価) 日頃から買い物や散歩に出かけることができるよう支援している。お弁当を持って出かけた外食を楽しむなど、利用者が少しでも外出できる環境づくりに努めている。年間行事を組んで催し物を行っているが、利用者の外出要望に急遽対応する等、利用者の希望に沿った外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が買い物に行く時には、支払が自分でできるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要に合わせて電話したり、手紙を書く支援をしている。毎日電話をして、家族の声を聞く人もいる。手紙の日の設定を考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人にとって居心地の良い場所を、できる限り設定している。テレビの音量や室温に十分配慮している。ペアガラスになっており、外の音が聞こえにくいのが良い点であり、悪い点でもある。西日が当たり、カーテンを閉めなければならないのが残念である。</p> <p>(外部評価) 玄関ホールは広くソファが置かれ、天井が吹き抜けになっており自然な光が差し込んで明るい。リビングの広い窓からは宇和島城が見え、海や街などを眺めることができ、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。環境整備が行き届いており、利用者が居心地よく安全に安心して過ごせるよう空間づくりをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 図書コーナーやホールを利用して、それぞれ思い思いに過ごせる場所を見つけている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) テレビや花、タペストリー、仏壇、椅子、こたつなど馴染みの物を持ってこられ、ご本人らしい暮らしになる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼット、洗面台が備え付けとなっている。居室には利用者の使い慣れたタンスや鏡台、仏壇等が持ち込まれている。また、家族との写真や家族を描いた絵が飾られ、利用者の個性のある部屋づくりをしており、落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 本人の状態に合わせてベッドの位置を移動するなど、安全に暮らせるよう工夫している。テーブルの高さなど、利用者に合わせて対応することもある。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890300126
法人名	有限会社ケアサポートさくら
事業所名	グループホームしおり
所在地	愛媛県宇和島市丸穂甲937-15
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 18 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①デッキでつないだ他ユニットの利用者との交流や、合同行事による隣接ホームとの交流など、開かれたホームとしての在り方を検討し、一人ひとりの居場所や生活に広がりができることを目指している。
②保育園を中心に地域との交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所から宇和島城が目の前に見え、海や街が見渡せる素晴らしい景色の中、利用者は穏やかな日々を過ごすことができる。代表者をはじめ管理者、職員全員が利用者に関わり、利用者の望むことはすぐ行動に移し実行するなど、前向きな姿勢でケアに取り組んでいる。管理者は職員から信頼されており、関係性がとても良好である。職員の対応は優しく、利用者一人ひとりの思いを大切にしながら利用者本位のケアを行っており、穏やかに楽しく生活できるよう支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームしおり

(ユニット名) 空

記入者(管理者)
氏名 渡部 和美

評価完了日 平成 25 年 10 月 16 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で相談して作り、額にして、職員だけでなく利用者にも家族にもわかるようにしている。またそれを合言葉に、実践に向けて努力している。</p> <p>(外部評価) 事業所の基本理念のほかに、職員全員で考えたユニット毎の理念を作成し掲示している。年度末に職員は1年間の理念に沿った取組みの振り返りを予定している。理念は職員全員で共有し、利用者一人ひとりの思いを大切にされたケアの実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に入り、地域の夏祭りや行事に参加したり来てもらったりしている。広報誌を回覧板で回してホームの様子を知ってもらったり、地元のお店の商品を配達してもらい交流を図っている。高齢者サロンを、ホームで実践していただいたことがある。保育園とは2か月に1回、ミュージックケアなどで交流がある。</p> <p>(外部評価) 事業所の「しおりだより」を自治会に配布し、地域住民に周知して理解を得られるように努めている。近隣の保育園や小学校との交流の機会が頻繁にあり、利用者は保育園児と芋ほりを行い、芋を土産に持ち帰ってもらうなど交流をしている。地域のボランティアが頻回に訪問してくれるなど交流が深まっているが、管理者は本格的な交流はこれからだと考え、地域とのつながりを大切にして取り組む姿勢が伺える。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 毎月、見学・相談日を設けている。相談を受けた場合は、認知症の人の理解や支援方法をアドバイスできるようにしている。地域の病院の講演会の場を提供し、地域の方と一緒に勉強する機会もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回開催し、事業所の取り組みやサービスの状況な どを報告し、家族や地域の方や他のグループホームの方等 の意見を取り入れ、その内容はミーティングで発表し、 サービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、保育園長、赤十 字奉仕団代表、老人クラブ代表、自治会長、近隣のグルー プホーム管理者、市担当者等の参加を得て開催している。 会議では事業所の状況や課題等を報告し、参加者と意見交 換をしている。会議と合わせて地元の医師を招き、公開医 療講座を開催する工夫もしている。開設後間もない事業所 の会議であるが、参加者や議題が固定化しないよう、より 良い会議になるように工夫や努力が伺えた。	会議は報告や情報交換にとどまらず、多方面から情報 を収集することや参加者から率直な意見をもらい、 サービス向上に活かしていくことが重要である。参加 者から幅広く意見が得られるように、今後は近くの小 学校や消防署等にも参加を呼びかけ、双方向的な会議に なることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、アドバイスをもらって いる。また、その議事録は報告したり、疑問がある時には 相談に乗ってもらっている。 十分連携を図り、協力関係が築けるよう努めている。	
			(外部評価) 市担当者が運営推進会議に参加し、利用者の相談を行うな ど連携を深めている。事業所の運営報告やヒヤリハットな どの相談が気軽にできる良好な関係を築いている。また、 介護相談員の受け入れを申請している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修にて身体拘束は理解しているが、事故防止のため夜間 のみ階段とエレベーターを閉めている。	
			(外部評価) 職員は利用者に寄り添い見守ることで、身体拘束をしない ケアに取り組んでいる。事業所の新人研修にも身体拘束を テーマに取り入れている。外部研修の参加者は、ミーティ ング等で報告し職員間で共有している。言葉での拘束にも 職員全員で意識しながら適切な対応をしている。利用者の 安全面に配慮して、夜間のみ玄関に施錠し、エレベーター の使用は中止している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員が研修で学び、理解している。 虐待のない介護に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 後見人制度を利用されている方がいる。 制度についての研修を受けている。 また、必要になった場合はいつでも活用できるよう、対応できる準備がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明と理解に努め、双方納得して入所いただけるよう心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置している。 家族からの意見は、その都度職員と話し合い、運営に反映させている。また、運営推進会議等で報告している。	
			(外部評価) 利用者や家族が運営推進会議に参加し、意見や思いを表せる場を設けている。また、家族の訪問時や担当者会議などで意見や要望を聞くよう努めている。開設して間もないため、家族からはあまり意見等は出されなていない。利用者や家族から出された意見は、迅速に対応できるよう取り組む姿勢である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会やミーティングで意見を聞き、職員が運営に参加できる機会を取り入れている。	
			(外部評価) 職員は管理者に日々の業務の中で気づいたことを話しており、毎月のミーティングやユニット会でも活発に意見が出されている。管理者は職員の意見を尊重し、働きやすいシフト作成をするなどコミュニケーションを図りながら、職場環境や関係づくりを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 時間外手当や会議手当、研修費等設けて、働きやすい環境になっている。代表者の気配りがある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の機会を設けて、全員が参加できる。また、資格が無理なく取れるよう、取り計らっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近くのグループホームの行事に相互に参加している。運営推進会議にもお互い出席している。協会の相互研修にも参加し、サービスの向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に不安なく生活できるよう、寄り添う介護をしている。本人の声を聞いた時には、職員皆で情報を共有し支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約時やその前の面接時に、本人・家族の困っていることや不安なことなどをよく聞き、サービス内容についてよく説明している。 なんでも話していただけるような関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 希望を聞いて、必要なサービスや福祉用具、馴染みの人や物の支援を含め、本人にとって必要な支援を見極めて対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 調理や洗濯物たたみなど一人ひとりの活躍の場を提供し、共に生活できるよう努めている。 また、一緒に歩いたりテレビを見たり会話するなど、日々の生活全般で支え合いながら生活している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 受診に同行してもらったり、日々の状態を報告して面会をお願いしたり、行事のたびにお誘いするなど、できる限り本人と関わってもらっている。 家族の面会時には普段の様子をお話したり要望を聞くなどして、家族の気持ちも大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ドライブで家族に会いに行ったり、希望すれば毎日電話して、家族の声を聞くこともできる。行きつけの美容院や病院、店にも行っている。 (外部評価) 行き慣れた美容室や店に買い物に出かけるなど、利用者一人ひとりの生活習慣を大切にした支援をしている。併設するグループホームの利用者との交流をしており、毎日デッキで会話がはずんでいる。携帯電話で知人に連絡をするなど、利用者の馴染みの人や場所など継続的な交流ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 男性が1名のため、隣のホームと合同ではまゆうの会（男子塾）を作り、月1回男性だけの交流を図っている。レクリエーションを取り入れ、仲間意識を高めている。また、利用者同士の会話の橋渡しをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院された方には継続してお見舞いをしたり、家族から相談があれば対応している。偶然に出会えば挨拶など交わしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 誕生日には本人の希望を聞いて対応したり、出かけた際には出かけられる支援をしている。担当者会議の際、思いや意向を聞きとる機会を作り、本人からの希望はできる限り叶えられる支援をしている。 (外部評価) 利用者の一人ひとりに向き合いながら、職員は日々の会話の中から思いや希望を聞き取るよう努めているが、困難なことを実感している。利用者の思いや意向の把握はこれからの課題として職員全員で話し合い、管理者は利用者寄り添いながら支援していくことを検討している。また、ボランティアが利用者の思いなどを描いた絵を飾る工夫をしている。	思いや暮らし方の希望、意向等を明確に把握できない利用者もいるが、曖昧にしたり一部の職員の意見や考え方で決めてしまわないよう職員間で話し合いながら、利用者本位のサービスが提供できることを期待したい。また、利用者や家族は事業所での共同生活に不安もあり、職員が寄り添い優しい支援をしていくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) できる限り本人から聞きとり、また家族からも話を聞き、把握に努めている。聞き書きボランティアの協力も得て、ご本人の思い出などの収集もしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の活動や会話の中から本人の力の把握に努めており、実践につなげている。日々の健康チェックなどでも情報収集し、持てる力を活かしつつ自立支援につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のモニタリングをユニット会で担当者が発表し、話し合っている。 ケアプランも、担当者や看護師を含む全員で話し合って作成している。	
			(外部評価) 「利用者がより良く暮らしてもらうためにはどうしたらよいか」を考え、利用者毎の担当者を中心に話し合い原案を作成し、職員全員で話し合い介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、評価を行っている。管理者は利用者や家族の意見を反映して、職員の意見を聞きながら介護計画がより良いものになるよう努めている。また、定期的に計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送り時に徹底して伝達して、情報を共有している。個人の記録の中にケアプラン実践の記録もあり、実践につなげている。また、その集計で客観的なモニタリングに努めて、計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 男性だけ集まるはまゆうの会を開催や、家族の入院時にお見舞いにお連れしたり、他のグループホームの利用者の行事参加を受けたりした。 家族の昼食も提供している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 多くのボランティアの来所があったり、保育園や小学校、公民館の行事に参加している。 地元の魚屋さんやパン屋さんにも来てもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 家族の協力を得てできている。 かかりつけ医に常に何でも相談し、対応してもらっている。 定期的に往診がある。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を家族の協力を得て受診することができる。緊急時には協力医が24時間体制で対応しており、利用者は安心して生活を送ることができる。また、月2回協力医の往診があり、利用者の健康管理をしている。専門医への受診は職員が同行し、状態の報告等を行い連携を図りながら利用者の支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 常に相談し、協力して支援にあたっている。 スタッフは気づきや情報を提供し、看護師が対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時の情報提供を必ずし、退院時の相談に乗っている。 空き情報も伝えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に詳しく、終末期の方針について伝えている。 家族の意向を考慮し、協力医やかかりつけ医との連携を取りながら支援している。	
			(外部評価) 看取りに関する指針等を定めており、事業所では協力医と連携を図りながら看取りに取り組む姿勢がある。利用者や家族の意向をその都度確認しながら、利用者の思いを大切に安心して終末期を過ごせるよう取り組む方針である。急変時に備え、代表者や管理者が事業所に待機するなどして対応できるよう体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 普通救命救急講習を全員受けている。 新任者へは新任者研修の一つで、緊急時の対応について研修している。 AEDを設置している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を実施している。 各ユニットや主任等は携帯を持っていて、すぐに緊急時の対応ができるようにしている。 地域の協力はお願いしているが、体制は整っていない。 (外部評価) 年2回避難訓練を行う方針である。開設して1度訓練を実施し、地域住民に参加協力を呼びかけたが参加者が少なく、地域住民を交えた訓練が行えるよう努力している。宇和島市の避難訓練にも参加し、地域での協力体制にも対応できるよう努めている。また、備蓄等を用意し、利用者の安心安全な生活を守るために災害対策に取り組んでいる。	職員だけでの利用者の避難誘導の限界を具体的に確認し、地域住民や地域の消防団等の参加を呼びかけ、事業所の災害対策に関する理解を求め、協力体制を築いていくことを期待したい。事業所を地域の避難場所として提供していることから、運営推進会議等を利用し事業所内部の見学を行うなど地域住民への周知に努め、身近な関係を築いていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 否定するような声かけはしない。人生の先輩であるという意識を持って接している。また、部屋に入る時のノックや入りたい時に利用者に入る旨、確認している。 トイレの声かけは小声するなど、プライバシーを損ねないよう対応している。 (外部評価) 特に排泄や入浴時に、利用者の誇りやプライバシーを損なうことがないように配慮しながらケアに努めている。また、利用者のプライドを傷つけないよう声かけに注意したり、利用者一人ひとりの人格を尊重するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 生活全般で本人の意思を確認しており、自己決定できるよう声かけに努めている。自己主張が強い方が多いが、自己決定が困難な人には選択肢を作って、選んでもらうよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思に沿って対応しているが、安全面を考慮して時には制限のある生活もある。 決まった日課ではなく、利用者の希望に合わせて場所を変えてお茶を飲んだり、1対1で対応したりしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 美容室で毛染めしたり、同じ服を着ないように支援する。 ボランティア散髪が毎月あり、定期的にカットできる。 行きつけの理・美容院を利用できる支援もしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員が、季節感を感じられるメニューを考え、一緒に食事の準備をしている。誕生会やイベントにはお祝い膳や仕出しを利用することもある。 時には外食したりお弁当をとったりして、食事が楽しめる工夫をしている。	
			(外部評価) 職員と利用者が同じ食卓を囲み、会話しながら楽しそうに食事をしている。利用者の希望をメニューに取り入れ、利用者と一緒に育てた野菜等が食卓を飾っている。利用者が下ごしらえや片付け等を率先して笑顔で手伝うなど、自宅と同じ雰囲気になれるような楽しめる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量をチェックしている。お茶の時間の回数を増やして脱水予防に努めている。 夜間には飲みやすい容器を枕元に置き、対処している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声かけし、必要な方には口腔ケアをしているが、その他の利用者には十分とはいえない。 かかりつけの歯科医には、すぐに相談し対応していただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄と排泄チェックに努めている。本人の様子をみて声かけし、誘導、介助している。できることとできないことが把握できていて、必要な部分を支援している。夜間は本人の状態に合わせて声かけしている。	
			(外部評価) 基本的に誘導をしてトイレでの排泄を支援している。排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。失禁のある利用者には、紙パンツやポータブルトイレを使用するなど、その人に合わせた支援を行っている。居室にあるものを併せるとユニットに5か所トイレが設置されており、利用者の状態に合わせて使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 体操や十分な食事摂取を働きかけている。排便状況の把握に努め、コントロールできるよう対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿って入浴できるよう働きかけている。日中ならいつでも入浴でき、毎日入浴されるもいる。1階の浴室を利用している。特浴があり、移動が不安定な方も安心して入浴ができる。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、毎日入浴できる体制をとっている。ユニット毎に個浴槽と特殊浴槽を設置し、利用者の状態に合わせて安全に入浴できるように配慮している。入浴の苦手な利用者には無理強いないよう声かけやタイミングを工夫している。また、利用者に合わせて同性介助や2人体制で入浴介助を行っており、心地よい入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの様子を見て対応しているし、本人のペースで休憩できている。くつろぎの場所があり、好きなところで休息できるようにしている。夜間は居室の室温や寝具の状態を確認し、安心して眠れるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は2重のチェックで誤薬がないよう努めている。薬は名称で覚え、変更時には必ず情報が共有できるよう記録している。職員はほぼ理解し、飲み忘れなどのないよう、また、変更時は変化の確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 全員に役割があるよう努めている。本人の得意な分野（調理、塗り絵、歌など）で、本人の力に合わせて一緒にしている。おやつも希望に合わせて一緒に買いに行ったりもする。玄関先の花を生けてもらったり、外気浴、散歩等気分転換を図っているが、つまらないと言われる方もいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の希望があればできる限り対応し、神社のお参りやおやつの買い物、美容院等支援している。遠方への外出は大変喜ばれる。 (外部評価) 日頃から買い物や散歩に出かけることができるよう支援している。お弁当を持って出かけた外食を楽しむなど、利用者が少しでも外出できる環境づくりに努めている。年間行事を組んで催し物を行っているが、利用者の外出要望に急遽対応する等、利用者の希望に沿った外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が買い物に行く時には、支払が自分でできるよう支援している。また、本人が希望する場合は自分で小遣いを持っており、買い物の際の支払いも自分でされている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要に合わせて電話したり、手紙を書く支援をしている。毎日電話をして、家族の声を聞く人もいる。時には家族からかけてもらって声を聞かせてもらっている。毎月、手紙の日を設定した。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人にとって居心地の良い場所を、できる限り設定している。テレビの音量や室温に十分配慮している。ペアガラスになっており、外の音が聞こえにくいのが良い点であり、悪い点でもある。西日が当たり、カーテンを閉めなければならないのが残念である。</p> <p>(外部評価) 玄関ホールは広くソファが置かれ、天井が吹き抜けになっており自然な光が差し込んで明るい。リビングの広い窓からは宇和島城が見え、海や街などを眺めることができ、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。環境整備が行き届いており、利用者が居心地よく安全に安心して過ごせるよう空間づくりをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 図書コーナーやホールを利用して、それぞれ思い思いに過ごせる場所を見つけている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) テレビ、たんす、仏壇、椅子、こたつなど馴染みの物を持ってこられ、ご本人らしい暮らしになる工夫をしている。また本人の希望で、介助バーなどを持ってこられている方もいる。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼット、洗面台が備え付けとなっている。居室には利用者の使い慣れたタンスや鏡台、仏壇等が持ち込まれている。また、家族との写真や家族を描いた絵が飾られ、利用者の個性のある部屋づくりをしており、落ち着いて居心地よく生活できるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 本人の状態に合わせてベッドの位置を移動するなど、安全に暮らせるよう工夫している。テーブルの高さなど、利用者に合わせて対応することもある。</p>	